

幼児のがん治療きっかけ

AMD
A

コソボ住民に 眼科医療支援

医師、機器不足が深刻

「美談に終わらせぬ活動に」

アジア医師連絡協議会（AMD A）は七日、岡山市榴津のAMD A本部で記者会見を開き、目のがんを日本で治療したユーゴスラビアのアルバニア系コソボ住民、ネジール・シニックちゃん（3）にちなみ、現地への眼科医療支援「ネジールプロジェクト」を始めることを明らかにした。関係者は「現地で苦しむ人がたくさんいることを聞くにつけ、一つの美談にすぎない我々の活動を、何とか医療支援に結び付けたい」と話している。

プロジェクトは、AMD Aという。

Aとネジールちゃんを支援してきた日本・アルバニア協会（金沢市、児島和男事務局長）が共同で実施。ネジールちゃん一人だけでなく、現地の眼科治療全体を支援しようとした。現地では、北大西洋条約機構（NATO）の空爆などで、医療機器や専門医が足りず、十分な治療ができていない

プロジェクトでは、ネジールちゃんと同様の病気に有効な、レーザーを使った医療機器を今月末までに現地のプリシュティナ医科大学病院に贈り、診療室も整備。昨年十月、AMD Aの招きで来日し、約二か月間、医療研修を受けた同病院に勤務するガズメンド・カチャ

児島事務局長は「ネジールちゃんの治療のため、自分や自分の子供が同様の病気で苦しんでいる人ら八百人を超える人たちからカンパがあった。その気持ちで、コソボ全体に届いてほしい」と話している。

ネジールちゃんは、網膜芽細胞腫の治療のため、昨年七月に来日し、金沢大学

付属病院（金沢市）に入院。ほぼ完治したため、十二月に帰国した。現在は、週に一度、ガズメンド医師の検査を受けている。

現地から帰国したAMD Aのメンバーによると、ネジールちゃんは体調も良く「ほく、日本は大好きだよ。大きくなったら、また日本に行きたい」などと話していたという。



コソボのプリズレン市内の自宅で、家族とくつろぐネジールちゃん（右から2人目、2月28日撮影＝AMD A提供）